



◆生育状況

果樹試験場の肥大調査 6月1日調査結果
 昨年と比較して、開花が早いので肥大もしている状況です。

	前年比 %		平年比 %	
	縦径	横径	縦径	横径
つがる	119	118	121	118
シナノスイート	117	130	116	129
ふじ	124	126	125	128

◆当面する重点作業について

1. 降雨が続く場合は、炭疽病・輪紋病・褐斑病等が感染する時期であり重要な防除なので、丁寧に散布する。
3. 果実が大きくなり枝が下垂してくるので早めに枝つり、支柱立てを実施する。
4. 再度見直し摘果を実施する。
5. マイマイガ・カミキリムシの捕殺に努める。
6. 徒長枝の整理(日焼け防止に数本残す)をし、薬剤が樹冠内部まで浸透するよう作業を進める。
7. スモモヒメシンクイの防除(薬剤・耕種的)を徹底する。
8. 収穫期の作物や、収穫間際の作物への農薬飛散には十分に注意する。
9. 昨年よりフラン病の多い年です。被害枝の除去を徹底して行う。凍害のあった樹は特に感染注意！！

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期・・・6月17日(土)～6月21日(水) 散布日 月 日
2. 調合量・・・水1000当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10ml	—	—
エクシレルSE	20ml	キンモンホソガ・シンクイムシ類	前日まで
ナリアWDG	50g	輪紋病・炭そ病・斑点落葉病・すす	前日まで
トップジンM水和剤	66g	斑病・すす点病・黒星病・褐斑病	前日まで

3. 散布量・・・10a当り⇒500ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①病気は、雨による果実の濡れ時間が長く気温が高いほど多発する。
 炭疽病の感染は降雨時の気温が高いほど(16℃以上)又、濡れ時間は10時間以上、特に24時間経過するような濡れの継続で飛躍的に感染量が増加する。
 炭疽病、輪紋病の多い地帯は散布日を早めて10日間隔で降雨前の防除を徹底する。
 - ②ここ数年発生が多く褐斑病の最重要防除になる。散布量、散布ムラがあると感染しやすいので注意する。
 - ③展着剤をササラ3,000倍(水100ℓに33ml)に代えると濡れ性がよくなり、農薬の汚れが軽減できる。
 - ④雨が多い場合は、通常の展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE1,000倍(水100ℓ当り100ml)にすると、残効が長くなる。ただし薬剤は広がりにくいので散布ムラの無い様にする。
 - ⑤トップジンM水和剤に代えてベンレート水和剤3,000倍(水100ℓ当り33g)でもよい。
 - ⑥エクシレルSEに代えて㊸オリオン水和剤1,000倍(水100ℓ当り100g)でもよい。

- ⑦ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤1,000倍（水100ℓに100ml）を特別散布する。展葉剤不要だが、単剤での散布を基本として使用する。高温時の散布は薬害になる場合があるので控える。卵には効果がない。散布1週間程度で、再び成虫が発生し始めるため、発生状況を確認しながら繰り返し使用（使用回数制限無し）することでより効果的。また、ダニ剤を散布する2～3日前に使用する事も有効。
- ⑧シナノリップはシンクイムシの被害が多い。シンクイムシに対して効果の高い㊦サイハロン水和剤2,000倍（水100ℓ当り50g収穫7日前まで・3回以内）を特別散布し、第7回から第9回までの散布を10日間隔にしても良い。なおサイハロンは登録の幅が狭い薬剤（リンゴ・ナシ・モモまで）の為、他品目への飛散には注意する。
- ⑨アブラムシが多く作業上、気になる場合はモスピラン顆粒水溶剤2,000倍（水100ℓ当り50g）を加用散布してもよい。

◆園地の除草対策について

ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草（刈取り）を励行する。

1. ダニ剤散布の3～5日前に下草刈を行うか除草剤により雑草を処理して、ハダニを樹上に上げてから散布する。樹上散布の後に除草剤散布や、草を刈り取ると事後の発生が多いので注意する。
2. 刈取り敷草化を基本におこなうが、根元は除草剤を使用しても良い。
3. 除草剤はバスタ液剤またはザクサ液剤を使用する（収穫21日前まで、年3回以内）
 - ①草丈30cm以下なら10a当り、水100～150ℓ にバスタ液剤またはザクサ液剤を500ml 処理する。一般雑草は300倍（10ℓ当り33ml）で使用する。
 - ②草丈があまり長いと効果が落ちる。
 - ③多年生（宿根性）雑草には140倍（10ℓ当り75ml）で散布する。
 - ④ワイ性樹などでは葉に飛散しないよう注意する。
 - ⑤ヒコバエ等を刈り取り後の傷口が治っていないうちに除草剤を散布すると傷口からも入り薬害となるので注意する。

◆カルシウム欠乏対策について

カルシウム欠乏（ビターピット）は急に果実が肥大することにより果実内のカルシウムが薄まるため発生する。梅雨時期が続くと「夏明り」を中心に早生品種で、秋雨が続くと晩生種で発生しやすい。着果が少なく大玉になった場合は発生しやすい。ただし着果量があり遅い花（側果）を残した場合は大玉になりにくいいため発生はしにくくなる。

カルシウム欠乏が心配される場合は、薬剤散布に合わせて収穫までスイカルまたはカルビタの1,000倍（水100ℓ当り100g）カルタスまたはストピットⅡ500倍（水100ℓ当り200g）を使用してもよい。なおストピットⅡは白くなるので収穫前の使用は控える。

◆ヒメボクトウガの被害が増加中

状況 数十匹の幼虫が樹幹内部を縦横無尽に激しく食害し、加害された樹は衰弱枯死する。

幼虫は樹の中で2～3年かけて成長する。虫フンを出した穴が多数ある。

蛹殻が半身を乗り出した格好で残されている。

成虫は6月下旬から8月上旬に発生する

対策 ①食害が多い所は伐採する。

②通常防除でも被害場所によくかかるように散布する。また被害に遭っていない幹にも丁寧に散布し予防する。

③スプレータイプの殺虫剤「ロビンフット」（収穫前日まで・年5回以内）を使用する。

虫フンを取り除いた所へノズルを差し込みながら噴射する。

薬液が逆流するまで（2～10秒）噴射する。

散布後苦しくなった幼虫が穴から出てくる（出できた幼虫も死にます）

幼虫が成長すると穴の長さが100cmにもなる場合があり、かかりにくくなるので食入初期に使用する。

カミキリムシへの効果もあるので合わせて実施する。

◆シナノリップ・サンつがる・早生品種の鳥害対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害を防ぐ。

2. 被害にあった果実を取り除く。

3. 鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。

なお使用する場合は周辺の環境に留意する。特に住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はやめる。住宅地より200m以上離れた所で使用する。

◆日焼け防止寒冷紗の被覆について

1. 設置時期 温度が高くなり日焼けが発生しそうになる6月下旬頃から

遅くなっても設置して日焼け被害の程度を少なくさせる。

2. 設置のメリット（日焼け軽減の他に）

①葉摘み・玉回し作業の時間帯が広がる。②鳥よけ効果がある。③降雹場合に被害軽減できる。

④作業時が涼しい（新わい化栽培は日影が無い）

3. デメリット

①設置・撤去作業の手間。②ネットや支柱の費用がかかる。③着色がやや遅れる ④通常作業にジャマ

4. 設置前の注意

①トレスや支柱の強度は十分あるか。

②樹との空間を空けて設置できるようになっているか（作業面・風通しなど）

5. 設置してからの注意

①台風や強風（風速20m以上）が吹く場合は、寒冷紗を迅速に収納できるようにする。

②寒冷紗だけでは日焼け防止は不十分。かん水も併せて行い温度を下げる。

③収穫中も設置し、8割程度収穫が終了したら取り外す。

◆ふじの袋かけ時期の目安について

①一挙除袋専用袋の場合⇒6月末～7月10日頃

※ふじは、収穫を早めるためにできるだけ一挙除袋専用袋を使用する。

樹勢が弱い場合は、袋かけを遅らせる。被袋期間85日くらい。

②一挙除袋専用袋以外の二重袋の場合⇒6月下旬～7月初旬頃。※有袋期間90日以上確保したい。

◆干ばつ・多雨対策について

降雨が少なく、晴天が7日以上続き乾燥状態になっている場合は、10a当り、20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。幼木に対しては特にかん水をこまめに行う。敷きワラを行い、水分ストレスを減らす。

少雨で土壌が乾燥するとカルシウム欠乏が発生しやすいので、必要に応じて葉面散布を行う。

降水量が多い場合は「根痛み」を防ぐために、排水対策をする。

特に新しい化栽培では、水が24時間以上溜まると水ストレスによる黄変落葉が発生する。

《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311